

## 平成21年度米子市文化ホール運営委員会議事録（概要）

### 議事の概要

#### 文化ホール職員

議案1 平成20、21年度事業報告について  
平成20年度と平成21年10月までの施設利用状況の実績を比較し報告  
平成21年度自主事業実施状況を説明

#### 委員

事業団の収入についてですが、例えば、「ちょっとピアノ練習」事業は1時間1,260円ということですが、これは収入、支出の対象ではないのですか。

#### 文化ホール職員

これにつきましては、ホール利用促進事業というように名前を付けさせていただいておりますが、利用料収入という会計に入っております。収入としてはありますが、事業収入ではあげていません。

#### 委員

「妖怪狂言」の収入、支出について教えてください。

#### 文化ホール職員

それにつきましては、特に収入でも支出でもない人が動いたというところでございます。実際には電気を使い、ガスも使い、人間も動いていますが実際にお金が動いてないので、これはあげさせていただいていません。

#### 委員

やはり経費が掛かるということは、どこかで入っていないと。

今度は財団法人の方にも関係すると思いますが、収入源というのはどこに載っていますか。例えば人件費とか。

#### 長谷川次長

今、事業団の方の説明の「ちょっとピアノ練習」は単純に考えれば、使用して収入1時間千いくらでやっていて何でこの表に収入をあげていないのですか。何か不都合があるのですか。

#### 文化ホール職員

ホールの利用料の中の会場使用料としてあげています。

#### 長谷川次長

この表を見ると収入額という欄があって空欄になっている。一時間1,260円もらっていながらあげていない。利用者が57人いるのにトータルいくらもらったのかという収入で数字をあげるのには差し支えないと思います。

#### 文化ホール職員

そういうことであれば、来年度以降からあげます。

#### 長谷川次長

そういうことがこの表から見えてこないと委員が言われるように、どうしてだろうという質問になりますのであげてください。

それからもう一つ、多分補足説明の中の4ページ目の「妖怪狂言」、それから「米子市公会堂開館50周

年記念事業」というのは、言ってみれば事業を主催するときに、主催を米子市あるいは事業団、それとNHK あるいは県の事業団という格好で事業をやらせていただいて、これに掛かるその経費については、「ふるさと皆様劇場」はNHK が全額費用を出し、入場料等は来られた方からもらっていないので、実績としては数字だけという格好になった。

#### 委員

私の発想としては、そういう場合でもこの経費はいただくというか帳簿用かも知れませんが、運営とか、経営というのは経営計算がここにいくら掛かったということが知りたい。

#### 長谷川次長

事業団全体の収支は基本的にどういうふうな仕組みになっているかということを説明しますと、大きく言えば事業団の事業と、施設管理の類いに支出でございます。同時にそれを充てる為の収入としてありますのは、一つには副館長が説明した貸し館の時の施設使用料をいただきます。それから実際に事業をやるときに有料の入場券収入がございます。さらにもう一つ、市の方からこういった文化施設を管理運営するということは市民サービスを提供することなので、指定管理料というのを支払います。三つの収入がございます。

平成 17 年度まで委託という形式をとっており、事業費、管理運営費、全部全額市が出していました。指定管理者制度になると、一旦出したお金が足りない場合は、事業団が自ら自腹を切らなければならない。逆に一生懸命事業をしてあるいは経費を節減して、ある程度余剰が出れば、それは市に返さなくても事業団のほうの収入として使うことができる。その事業団の収入として使うことができるという中で、翌年度の事業の中にさらに事業の充実という格好で使う場合がある。「ふるさと皆様劇場」では、NHK が使うならNHK からお金を頂くという考え方もございますが、この事業を米子市の公会堂でもらうということの情報発信、全国的に米子市のPR、そういったものを勘案した時には使用料をとらなくても、それ以上の効果が期待できるという中で、NHK サイドと話し、この事業をやったというのが実情でございます。

#### 委員

いわゆる言葉の使い方で、事業団収入とか、施設使用料とか、あるいは指定管理料というような、僕らではすぐ分かりませんでした。今おっしゃいましたように、1,260 円を 57 名分で収入額に入れて、そして数字を入れていただくということで良いでしょうか。

#### 長谷川次長

これは特に問題ないでしょう。

#### 委員

では3 ページ目の所に、これからは入れていただくということをお願いいたします。

#### 委員

先ほどの狂言とか 50 周年とかは分かり易いいうと、例えばNHK が公会堂を使う費用は全部出しているということですよ。

#### 文化ホール職員

いえ、私どもが負担したというのはおかしいですけど、もらわなかったと言った方が良いかもしれません。そういう部分は我々が協力したという形です。

#### 長谷川次長

NHK の事業をやるときの一つの条件が、ある意味でギブアンドテイクがあります。こちらのほうは使用料等をいただきません。ただし、NHK の方は使わせてもらう代わりに、米子市公会堂というものを含めたPR を全国発信しますというような基本的なギブアンドテイク。NHK の事業を市が招致して事業を

展開する場合に、例えば一番有名な「のど自慢」は、何千万も市の方が出さなければならない。そういう格好のなかでNHKサイドのスタンスがあったのは、「ふるさと皆様劇場」は米子が最後の回で、これで事業打ち切りになりましたが、たまたま50周年いうことを絡める中で、NHK鳥取放送局の方が中央に話をして、じゃあ、そういう条件でやりましょうという方針を受けて、私の方は、例えばこのふるさと皆様劇場の中で皆生温泉もPRします、中海もPRします、白ネギ農家のPRもします。あるいは、東山中学校の生徒さんにレポーターになってもらって米子市をどんどんその中で全国発信のPRさせてもらう。そういうメリットが売りの中で、じゃあそれであれば市としてのメリットもあるから、その分使用料分については一切いただきません。ただし、逆にここに書いてあります前川清とか、小林幸子とかそういったようなギャランティーはこちらのほうは一切払いません。NHKさんの方が、出演者の方へは全部出してくださいという形態でやった事業。これは多分一大のチャンスということで、非常に全体としても効果の高かったイベントだというふうに思っています。

#### 委員

例えば狂言なんかは、財団がチケットを売っていますよね。チケットを売っていて財団の収支決算には出てくる訳ですね。

#### 文化ホール職員

県の収支決算です。

#### 委員

そのときに財団は会場使用料を全然払っていないのですね。

#### 文化ホール職員

契約の中でそういう契約を交わします。会場使用料、器具使用料、冷暖房代は私共がみます。いわゆる米子市の方がみますと。当然チケット販売も協力しますし、当日の運営も協力します。県の財団の方は何をするかということ、出演料を含めチラシ広報等を全部作ります、PRもしますということの条件分けをしまして、我々も協力しましょうと。協力して行った事業ですので、それは報告させてください。それでは我々は減免いたしましょうと。私共の文化ホール、公会堂を使って行った事業というのは、もちろん自分たちでお金を払うわけではないので、減免という形を市のほうからも認めていただいておりますので、それに対応したということでございます。ですから特にお金は頂いていません。NHKの時もそうだったということです。

#### 長谷川次長

付け加えて言うと、こういう事業を行うということで、例えば狂言でも、なかなか東京とか大阪に行かなければ見られないものを地元で見える機会を提供することになる。この「ふるさと皆様劇場」にしても、無料で目の前で小林幸子さんの歌とか、前川清さんとか、梅沢富美男さんの劇が見られるという機会を市民に提供することができるということと考えれば、費用や使用料を免除するだけで、楽しみを市民に提供することに繋がったということで理解していただいて事業をさせてもらっている。

#### 委員

そのホール料金を減免されるケースというものは、どこの段階で協議されて決裁されるものですか。

#### 文化ホール職員

まず使用料についての減免制度は、規則の中に考え方が定めてあります。それに基づきまして、個別具体的なケースについて該当する場合には適用していく。例えば、市民が参画してこのホールを使う秋の文化祭は、一定の期間の中で使われる場合については30%、そういう具体的な基準を設けてあります。指定管理者制度以前の制度を引き続き行っていますし、もう一つは指定管理者制度の特徴で、市が定めた基準の枠の中で、使用料というのは事業団のほうの収入になりますので、自己責任、自己判断での免除も可能です。ただし、基本的な考え方を逸脱する場合については私共の方としても認めがたい場合もあります。

ですので、定めがない場合は当然それが今の社会的ニーズに合うものに変えていかなからでも、適切な減免制度を行う必要があります。PRが行き届いていないので中々難しいです。

#### 委員

知っていたら安くしてもらえたのに、というのがありますか。

#### 文化ホール職員

すでに該当される方は分かっておられます。例えば中学校等でホールを使われる場合は100%減免という内規がきちんとありますので、公平公正にどこが言ってきたら減免するとかではなくて、きちんとした基準があります。米子市さんが成人式で使われる時は減免対象ではありませんので、きちんとお金をいただきます。内規に該当すれば、先程の秋の文化祭だと30%減免、ホールは30%減免という内規でやっております。

#### 長谷川次長

市は減免してもらえない。

#### 文化ホール職員

はい。使用料をいただきます。

#### 委員

事業というのは金が動く、人が動くといいますよね。普通だと収支決算報告というのが年一回どこの市町村でも、どこの部でも、会計課でも、全部そうします。その会議において、収入源は何か、支出は何か、予算があって決裁があってそういう意味で、例えば、無料にしたとしても経費が掛かった、人件費というか損益を発生したとか。そういう事がお金で見られるんですよ。それでみると、今年の経営は黒字だったのか赤字だったのか。別に赤字だから悪いとかじゃなくて、やはり文化の発信ですから、全部ただでもいいですよね。ただ助成してくれるなら、市の要請がいくらで成り立っていますよ、というようなのが何か私には見えてこないんですよ。

#### 長谷川次長

今のご意見の中に、そうだろうなというのがあります。多分これを見るだけでは、事業の実績とかそれぞれの館の単館での施設の使用料について少ししか見えなくて、当然管理運営用の人件費とか、時間に掛かる光熱費、そういったものをこの資料では見えないと言われるのは正にその通りです。収支決算書を作ることができますよね。事業団全体じゃなくて、三館別々で過去の三館トータルでどういう収入、支出になっているかというのを今後この委員会で出すようにします。

#### 委員

「狂言」で振興財団の共催があり、3ページへ戻ると「茂木大輔」も共催ですよ。結局、契約状況が違うということですね。

#### 文化ホール職員

そうです。私共が主催であって働きかけたところがあります。逆に、県の文化振興財団の方は経費を払っていません。人とかそういう所をお手伝いしてもらった。「妖怪狂言」は実はその裏なのです。表裏みたいなことがある。

#### 委員

結局、それがこの資料では見えない。そういう説明をここに入れてもらうとか。

#### 長谷川次長

確かに会長さんもこの資料の作り方で、今いくつか分かりづらいところもありますよね。単純に同じ「茂

木大輔」それから「妖怪狂言」と一緒にあれば、ちょっと極端なことを言えば、事業団が主催でお金を出してやる事業だったら、かえって共催と書かない方が、要は主催事業で、収入があるが損失が出ようが自分の所からするというのは、常にここにカッコ書きする必要はないのだろうな。「茂木大輔」の場合は、逆に「妖怪狂言」の場合は、共催という形で事業団としてやったという実績と報告はいいのだけれど、実質的な収支関係については一切事業団の方がやっているという話なのだろうし、さらに加えて言うと、私も委員も、一番分かりづらいのは、例えば「米子市音楽祭」の中で、収入のうち指定管理料 30 万円くらいの説明を受けてもよく分かりません。ちょっとそこら辺を含めて次回の資料作りは、もう少しシンプルで見直しさせてやってください。

#### 委員

マネーという面で収支決算がはっきりしていると分かりやすいのですが、私も実は質問しようかなと思っていました。やはりお金のことですので、鮮明に分かり易いように説明することも大事だと思います。その辺ご検討なさって是非またご提案ください。

#### 委員

今の全収支を明らかにして欲しいというのは、今日、ここに出されているものについて、後から郵送とかの方法で見せていただくというのはお願いできないのでしょうか。次回からではなくて、今見て真剣に考えたものを全体の中でどうだったかということが知りたいと思います。

いずれ内容についてもまた審議する場があると思うのですが、予算で入場者数をどれだけ見込んで、チケット料は、収入はどれだけになると見ていたのに対して、入場者数がどれだけいったのかに対して、その実際の結果はどうであったのかということを見ていかないと、これからの計画を立てるのに本当に参考にはしていけないと思うので、前年度比といっても、内容が違えばそのチケット収入の差っていうのも単純には比べられません。この事業計画をされる中で、予算をどういう風に組んでおられて、それに対してどこまでの実績が出来たかということと一緒に見たいと私は考えています。

#### 長谷川次長

今の意見のなかで、20 年度決算のまとめたものは既に出来ていると思いますし、委員の皆さんにお届けするようには出来ます。もう一つ、確かに事業を計画するとき、全体の収入としての来場者数をいっくらか見込んで、かつ、それが結果としてどうだったかという中でいけばそれは決算で出てきます。事業計画の中で、こういう料金で来場を見込んでいますというようなことを出せばいいと思います。

#### 文化ホール職員

今、ご意見のなかでシンプルがいいという意見と、もっと細かいのが欲しい、という意見とがあります。どちらで資料を作ったらよいのでしょうか。

#### 長谷川次長

基本的には要点が何かということ、委員が言われるように、全体にどういう収入がどれだけあって、かつ、支出がどれだけあるかという、そこが一つの全体の骨子で分かればいい。それから、委員が言われるような、特にその中でも、光熱水費で電気代がいくら、水道代がいくらかじゃなくて、事業分については、事業費用とそれに対する収支はどうなのかという、多分ポイントとしてはそういった所だと思いますので、それを整理したものを作ればいいと思います。

#### 委員

委員も細かいと言われたようなニュアンスかなとは思ったんですが、文化ホールの運営として、成り立っているのか、いないのかなと、そういう所が分かるような。

#### 長谷川次長

要するに、人が何人いてそれぞれの人件費がいくらでどうこうじゃなくて、結果的には全体の収支と、実際にやった事業をとらえた時の状況がどうだったのかという、概要が分かるような資料を作成するとい

う事で検討させてください。

#### 委員

先ほどの説明の中で、20年度は特にホールの利用が多かったということで、21年度が減っているとの説明だったんですが、20年度が普通よりも特出して多かったという理由は。

#### 文化ホール職員

ミュージカル等の連続使用で5日間入っていたりすれば、その分一気に上がります。お盆の頃、普通は空くんですが、お盆の頃に使われて、それを使うためにまた前のほうも結構沢山使っていただいていたので、そういったものが多かったということはありません。

#### 委員

ですが資料の中間報告のメインホールの使用率の円グラフを見ると、7.6と7.6。去年と変わりませんよね。それから研修室が31.2%と27.7%でここは大きく違うようですけども、イベントホールも変わってないですね。

#### 文化ホール職員

これは件数割合ですので、件数としては、メインホールが19年度は稼働率が71.8%。開館日数に対する利用日数でいけば71.8%です。件数割合としてはそんなに変わらないんです。例えば時間とか、どんな器具を使うか、冷暖房を使うかによって、全く料金が変わってきますので、全体の件数割合からいけば、それは変わらないとしか言えません。下では利用件数とか人数の割合を棒グラフにさせていただいております。色んな角度から見ていただくために作っていますので、この円グラフを利用料金割合にするとまた変わってくると思います。例えばカウントすればこの研修室を1部屋使うと630円位になります。午前中9時から12時まで使われたら630円なんです。ところが、メインホールだと午前中だけでも2万円ぐらいしますから、同じ1件といっても金額にすれば全然違ってきてしまいます。

#### 長谷川次長

そうではなく、委員さんが聞いたのは例えば2ページの所を見て、21年分の上半期実績だよ、メインホールの場合で、20年度の上半期や21年度の上半期は、数字的には件数自体は137と139で変わってないが、だけど実質的な利用使用料の方では約200万違いがある。そこら辺の原因は何なの、という話ですね。だからその円グラフじゃなくて、何がここで利用件数は変わらないのに、使用料金は200万も違うのかってというのが素朴な疑問としてあった。

#### 文化ホール職員

聞かれる内容については使用時間、器具、冷暖房で違ってきます。それが要因かと思います。

#### 委員

継続で借りると夜間もずっと借りることになり、値段も上がってくるのですか。

#### 文化ホール職員

夜間というか、22時までしかお金をいただいけません。22時から朝の9時というのは、お金はいただいけません。先ほどお配りした料金表を見ていただければ良いですが、3日間連続で使って実際には9時から5時までしか使わない、中学校の展示にしても、夜、他の団体に貸し出さなければ、その分の部屋代としてはいただきます。

昨年度は非常に暑かったので、物凄い冷房代、電気代がかかりました。メインホールは冷房代が1時間3,670円掛かってきます。そういったものを10時間使えば36,000円、という積み上げの結果ではないかと思えます。細かい分析はしていませんので、部屋代がいくら、冷暖房代いくら、器具代いくら、というようには仕分けしてありません。

## 委員

お話を聞いていて、先ほどと関連しますが、増、減といっても、事業結果と予算があって、基準があって、それに対して増だったか減だったかという方が分かり易いのと、実際は本当はもしかしたら、ざっくり言って、予算的にはクリアしたのかもしれませんが、分かりませんが、ただ、事業結果として先ほど出たのですが、やはり、これに対して予算がどうだったのかという問題が出てくると思います。方向性としてどうこうしてやるということができていたら、多分議論がし易いと思いますが。

## 文化ホール職員

分かりました。その意見も含めまして、事業実績と、収支決算書がないと全体が分からないというのが皆さんのご意見の集約したものだと思いますので、20年度事業については、収支の部分につきましては後ほど送らせて説明させていただき、次回以降のものはやはり21年度なら21年度で、収支がどうなっているのか、決算がどうなっているのかという資料作りをするという事で理解してください。

## 委員

要するに事業団が、やっている仕事が儲けているのか、経営が成り立っているのか、あるいはマイナスなのかが知りたい。

## 長谷川次長

儲けるという言葉は事業団として好ましくありませんが、結果としては、収支が三館全体での黒字、といえますか余剰が出ております。その目的というのは全体としての目標はクリアしているということで、具体的な状況は収支決算書をお届けする中で確認していただければ良いと思います。

## 文化ホール職員

22年度自主事業計画について説明

## 委員

自主事業計画につきまして調整中と書いてありますのは、それは中止になる可能性もありますか。

## 文化ホール職員

最悪の場合、中止も有り得ます。

## 委員

ということは、もう決まっている訳ですか。

## 文化ホール職員

まだ調整していますので、変更という可能性もあります。

## 委員

私共の委員が、自主事業についての意見を言う機会っていうのは今日しかないですね。

## 長谷川次長

実質的にはそうです。今日以外でも可能であれば意見を言ってもらい、それについての検討は役立てたいと思っています。

## 委員

収支を含めまして、メイン事業内容について、例えば、最低3つくらい出していただいて、そこから委員が検討して、皆さんと一緒に意見を統一して決めるというふうには出来ないでしょうか。それと、ダンスフェスタにしても、私は事業団がどうしてこのダンスというものを取り上げるのかという意図が不確定なので、そういうことを含めまして委員がもっと意見を言える場所とか時間があるといいと常日頃思っ

おります。「米子市音楽祭」や「童謡講座」とか「鷺見三郎顕彰事業」につきましては、それは継続的なものなので良いと思いますけれど、他の事業につきましてはそういうことを感じています。

### 長谷川次長

今のご意見、確かに色々な事業団、文化ホールの行う事業について複数の選択肢を提案し、この中でご議論いただいて選んでいくという方法が全く無いわけではないと思います。ただ、現実的な問題としては、多分ここを提案するまでに、かなりの日数をかけ内部で詰めて検討をしております。一つには時間的な問題、回数の問題。ただしこの問題は折角こういう場でございますし、別に 22 年度だけじゃなくて、23 年 24 年に向けてこういうことを検討してくれということによっていただければ、それは一つのメニューとしても検討していくという考え方で対応せざるを得ないと思っています。ひとつご理解ください。もちろん、この中でさらに 22 年度事業に盛り込みたい提案等があれば事務局の方と私の方で検討させていただくという過程になると思います。手順的には、これはまだ外に出したものでも全く決まった訳でも無いし、商品手続きを取っている物でもないの、変更等の可能性もあり、絶対これであれば駄目だと全ての事業で固まっている訳でもない。そういう状況ですので、提案は提案として承るといのはやぶさかではないと思います。

### 委員

来年度の事業について準備もしないといけないし、交渉もしなくては行けない。色んな要素も含んでいと思うので、その辺大変だとは思いますが。

### 委員

ここに書いてある 22 年度の計画というのはつまり、事業団の企画、事業団の立てられた計画という事ですか。

### 文化ホール職員

はい今、先ほどありましたが、「米子市音楽祭」、「童謡講座」、「鷺見三郎顕彰事業」、公会堂の「懐かしの名画劇場」というのは、指定管理者制度で、17 年度に公募があって、18 年度から 5 年間、指定管理者制度の事業計画を出させていただきました。その中に、米子市が是非やるべき事業、やらないといけないという事業としてあげているのが、「米子市音楽祭」、「童謡講座」、「鷺見三郎顕彰事業」、「懐かしの名画劇場」、淀江の「こども映画祭り」というものがあげてありました。これは当然ずっと行うという部分でございます。その他の所については、ある程度計画を教育文化事業団の中で、市民のニーズや声を聞きながら、来年はこういうことをやったらどうだろうかとか、例えば鷺見三郎さんの没後 25 年でぴったり合うから、メイン事業はクラシック音楽を今年度はやりましょうかという声は色んな方から聞きますので、それを繁栄させた形で組ませていただいている部分と、自由度という部分と、必ずやらなければいけない部分というものがあります。

### 委員

その指定管理を受けたときに、継続してやるべき事業という中の音楽祭とか、顕彰事業等はそれぞれの実行委員会があって、そこがその企画を抱えるメインの所になっているんでしょうか。

### 文化ホール

そうです。

### 委員

もう一件は、そのメイン事業の企画を考える基準というか、それをさっき 50 周年だったので、音楽、それに関係ある交響楽を一つのメイン事業にもってきたというそれは一つの考え方だと思います。そうではなく、来年はどのような基準でメイン事業をもってきたのか。例えばジャンルを満遍なく、という考え方もあると思いますし、その辺の基本的な考え方というのが知りたいと思っています。例えばこれが聞きたいという声をどういう風にリサーチしたのか。毎回コンサートとかをされる中でアンケートで



出てきた声とか、色んなことがあると思います。では、どの声を反映して運営委員会の声はどこで盛り込まれるのか。そういうことを、どういうふうに企画を考えているのかという点を聞きたいと思います。

#### 文化ホール職員

18年、19年は演劇を行いました。「ダモイ」を18年度行いまして、その次は、「お〜い幾多郎」は文学座のものをやりました。20年度が「N響」を行っておりまして、21年度が、「大谷康子ファミリーコンサート」のクラシック音楽をやっております。何をやるのかというのは、企画委員等が皆さんから色んなお話を伺いながら、それぞれが持ち寄って意見をぶつけ合って、その中で3館の企画委員が集まって決めているというものでございます。来年度につきましては、演劇、演劇とやって、音楽、音楽とやって、その前も落語もやっていたりして、前も落語もやったよ、というお話をもらった中で、こういうのもあるよ、という話題をもらったということもあったものでしたから、来年度については、そういった方向で決めたらいいじゃないか、と言うことで、決めさせていただきました。明確な基準があるのか、というと非常に難しい所ではありますが、今後の決め方につきましても館長の方と話をしていますが、もっと検討しなければいけないと気が付いてはおりますので、また色々ご相談差し上げたいと思っております。

#### 委員

今の友の会の会員でちょうど120名くらい。この方達は、今おっしゃったようなアンケートをとるとか、今の関連でどんなことをして欲しいとかっていうふうな直接的な意見というのはあるんですか。

#### 文化ホール職員

直接的なものはございませんが、フィールの7月号の文面の中に、ご意見を募集していますという項目を載せて出しております。それ位です。直接的なものはないです。

#### 委員

友の会の会員になったメリットというか、こういったところの友の会になる方というのは、それなりに色んなものに興味があると思うんですね。120名の方の意見というのがもし出てくれば、逆に言ったら皆さんの欲している物が分かるような気がするんですね。その辺がこの辺りに組み込んでいただくと、友の会、わずかな会費だから大変かもしれませんが、こういったふうなところで声をとっていくことも可能ではないかなと思います。

#### 文化ホール職員

ありがとうございます。

#### 委員

事業を来年度、あるいは再来年度に関して、提案してもらってもやぶさかではないという事務局サイトの問題点でありました。それから、どういう基準でメイン事業を選ぶのかという質問に対して、これからの問題として、今の回答として委員からの提案も受け入れますという回答だったと思います。それプラス、この事業団体の施設体験ツアーなんかということは、こうしろというよりは、館内で出来ることですね。そういう中で思ったのは、それぞれの場所をバスでツアーしていくというよりも、例えば公会堂なら公会堂、そういったところをターゲットにして、例えば説明として、照明さんという例を挙げれば、そういうものはドラマでこういう働きをしているとか、ちょっと深みのあるものを単なる点で回るんじゃないくて、一つの点の所で、三時間なら三時間時間をかけて、日ごろ苦労したり、努力しておられる所を子ども達に深く伝えるというような要素は工夫できそうだと思います。

#### 文化ホール職員

出来ます。まだこれはあくまでも頭出しだけなので、細かい内容はご意見をいただきたいと思います。バックヤードツアーじゃないですけども、そういったことも可能ではございます。

#### 委員

インパクトがやっぱりあるような物が良いような気がします。

#### 長谷川次長

確かに今の話でもメイン事業は明確な基準というものがあるわけじゃなく、事業団の企画の中で、持ち寄ってその中の話し合いで、じゃあ来年これをやってみようというところで、ある程度のすり合わせができる。友の会の方の話が聞けるような方向で検討してみたいと思います。何をするというのは、常に色々限定される条件がありますが、そういう声を参考にしながら市民に喜んでいただくメイン事業というものをやっていかないと駄目だと思います。

#### 委員

この間、中海テレビを見ていたら、宣伝媒体として米子のアイモールっていうのがあり、今、米子市内に試験中で二十何件かテレビモニターがあって、それに宣伝が5秒とか10秒とか写っていました。市役所とか広域の情報については、無料でやっていますとコメントしていました。ビッグシップにあるというような話を聞きました。ビッグシップとかSATYとかのテレビモニター等に、こういうものをやっているということが何回か流れるそういう媒体もあるのかなと思いました。

#### 文化ホール職員

はい。実際に最初から情報を出しています。文化ホールを是非出してください、テレビモニターを置かせてくださいということで、文化ホール、公会堂、淀江文化センターで5画面ずつ、上旬・下旬で毎回原稿を出しています。テレビモニター自体は文化ホールには無いですが、狭い所にすごく大きなものを置かせてくれと言われたもので、設置場所はちょっと無いですということでお断りしているんですが、情報は出してずっと流れております。

#### 委員

利用数の件ですけど、これはホール関係の事業について書いてあります。貸し館のところですが、貸し館される事はもちろん良い訳ですけども、これが一年前に開示をいたしますが、11月はほとんど取れなかった。つまり、学会があるということを知ったんですけど、そういう、10月、11月というのはすごく利用度が多い月に、あらかじめ決まっていることをやっていると、本当に利用するほうとしては、会場取るのに非常に困る。私共の定期演奏会も最初は11月を予定していたんですけど、結局取れそうにないので、12月にしようかなということを考えている訳です。

学会を優先されるというのは、学会というものがあって、どこどこを使うのかというのは全然私共は見えてこない。それは1年前に決まっているのか3年前に決まっているのかということも分かりませんし、幸い文化ホールの事務所のほうから色々11月に集中しそうな利用について色々なインフォメーションをいただいていたので、非常に助かったんですけど根本的な問題として、その辺はちょっとお考えいただきたいなと思っております。

#### 長谷川次長

今の委員のご意見ですが、全国規模のもののメリットは、ここにコンベンションがある。コンベンションと一体となって、そういう全国規模の研究会、発表会、学会というものをを使うときに、大体1年から2年前からオファーがかかったときに、これを、ここは音楽ホールだから、もし空いていたらいいけど、空いてなければ貸せませんよ、というのは非常に私共としては言い辛い。逆に全国規模の学会になりますと具体的にどこどこをどう使うかというのをとりあえず押さえていて、それは時間が経つにつれて、結果的にこれだけの会議室とこれだけのフロアを使うということになります。中々そこら辺の所で言い辛いというのは現状です。

#### 委員

たまたま、来年度がそういうことになったということは続く訳ですか。

## 文化ホール職員

たまたまです。

## 文化ホール館長

この文化ホールの最大の利用者というか、中心は市民の方々の利用な訳です。そうすると市民の方の利用最優先になっていくんですが、それだけでは色んな市民の方の考え方もございましょうし、コンベンションとの一致と、用件といいますか、自然体の賑わい等もございましょうし、色んなことがございまして、中々市民の方最優先にどうぞ、というようにはならないという部分が委員さんの方から提示されたと思っております。非常にもどかしい問題であり事実でございます。

## 委員

具体的には学会のために、どのくらい使われるのですか。

## 文化ホール職員

来年の11月というのはたまたまです。

## 委員

一つだけじゃないのですか。

## 文化ホール職員

4, 5団体くらいあります。全部の土日が潰れてしまって、実際に申し込んでこられるのが、例えば市内で開業された医大の眼科の研修会という方で、もちろんそちらの方達も市民なんですよ。我々本当にもどかしい所はあります。皆さんに使っていただきたいというのは山々なんですが、そういうもどかしさっていうのはあります。来年は5団体くらい学会系がなぜか11月に集中してしまって。まだ再来年はどうなるのかっていうことも分かりません。

## 委員

確かに全国規模の学会になったら、コンベンションと文化ホール両方使っても足りないかもしれないというのは想像がつかます。

## 文化ホール職員

公会堂も来年使いたい、商工会議所も11月じゃなかったですか。

## 委員

要するに、多くの人に来て欲しいということになると、やはり経済波及効果で狙いますからどうしてもそういう時期にならざるを得んと。

## 文化ホール職員

また秋だけじゃない違った魅力もアピール出来るといいなと思います。1月2月など。

## 委員

なかなかオフィスの方も2千人規模のものが予定されると丸抱えで要請されますので、大変だと思うんですけども、でも委員さんの言われたように、自分の所のコンサートがしたいと思っている場を、ということになると、もう設定が来年になってしまいます。問題を抱えているのも現実問題だと思うし、またその辺、柔軟な対応をしてもらいたいと思っています。来年は11月ということが重なったようですが、現実的に矛盾の要素はありますけども、何とか頑張っていたいただけたらと思います。

## 委員

耐震の診断もしてもらえるんですよ。結果が出るんですよ。

**長谷川次長**

結果は来年の春です。

**委員**

そういうことで耐震の結果が出てくると事業にも影響が出てくると。

**長谷川次長**

そうですね。気がかりでもありますが、耐震診断の調査、分析、診断の中で、診断の部分というのは、県の方に依頼する形をとります。そこは混雑しているとのこと。

**委員**

先ほどの学会の会議は、たまたま来年度はそうだということで、やむを得んかなと思いますが、それがまた次年度も続くようでしたら、やっぱり根本的に考えないといけませんよね。

**委員**

正に、米子市の地域の活性化といいますが、それが出されていけば沢山の人に来るということは、今懸念されている。事が多々起きているということになりますので、おそらくおっしゃるように、なんらかの検討をして、あるべき姿を模索することになるのではないかな。やはり市民不在の施設では困ると思っております。

**委員**

新規事業について、今後展開していくというものが提案されて、それは検討していただくというか、柔軟に対応していただくというのが出ましたけれども、他の問題点として、「ちょっとピアノ練習」というので、来年度、米子文化ホールではゼロになっていますよね。これは何故ですか。

**文化ホール職員**

先ほど稼働率の話もしたのですが、それは非常に高い稼働率で行っております。文化ホールは特価しまして、「ちょっとピアノ発表」というものを展開を変えてやっております。公会堂、文化センター、にはベーゼンドルファーがありますので、それを使っていただくような方向性にし、文化ホールは、もうちょっと変わった方向性でいきたいというために無くし、「ちょっとピアノ発表」にしたというふうにご理解いただければと思います。

**委員**

はい、了解です。

**委員**

一応事務局から提案された問題については、議論はありましたけれども、一応皆さん方納得していただいたと思います。

今日の議事はこれでよろしいでしょうか。